

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1190
施設名	北小岩おひさま保育園
施設所在地	東京都江戸川区北小岩5-7-4
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「色」

<テーマの設定理由>

園の園庭には広いテラスがあり水道設備も完備されている事から、水を使った遊びが容易に出来る環境がある。夏の遊びとしてポディーペイント等、絵具材を使用した遊びや日々の遊びの中で色鬼ごっこや英語あそびでの色に関する単語遊びに触れる機会が多く、園児の色に関する関心が強い傾向にある為「色」をテーマとして設定する。子ども達は夏の遊びの中で、色の混ざり合いから作られる色に興味を持つ姿があり、色の混ざり合いから光の反射による見え方の違い、自然物が作り出す色、色の濃淡への興味等、探究心を更に深めていきたいと活動を考えた。

2. 活動スケジュール

1回目	令和7年12月	色板	
2回目	令和8年1月	色水・様々な塗料、紙に触れる	
3回目	令和8年1月	光と色	
4回目	令和8年1月	自然物を使って色水を作る	
5回目	令和8年2月	色の家	(計5回)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【使用した素材や道具】色板、透明カップ、スポット、水槽、食紅、蛍光塗料、ポスターカラー、ケント紙、画用紙、和紙、蛍光クレヨン、懐中電灯、すり鉢、すりこぎ、注射器、ブラックライト

【環境の設定】

主体的に参加出来るように室内自由遊びの時間を利用して活動を行った。広い場所を必要とする時には、保育室隣にあるホールを利用し、自由に行き来出来るようにした。

・十分な数の道具や素材を準備し、1人ひとりが活動を十分に楽しめるように配慮した。

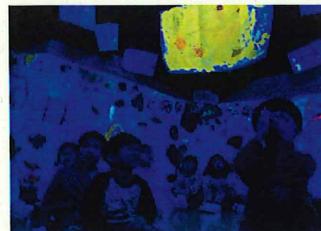
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

色への興味関心を広げることを目的に、色板を使った色探しから活動を開始した。その後、食紅を使った色水や自然物を使った色水づくり、様々な紙にポスターカラーや蛍光塗料を使った絵画活動へと発展した。さらに、光を当てると色の見え方が変わることに関心し、最後は制作した作品で「色の家」を作り、ブラックライトによって色が光る演出も取り入れながら探求活動を深めた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・色板の色を見て「海の色だから寒く感じる」「コーンスープみたいで美味しそう」など、色よってのイメージを保育士に伝えていた。白の色板を壁や蛍光灯の白と比べ、「光ると色って薄くなるのかな？」と光の反射に関心する声もあった。
- ・食紅を使った色水作りでは、透明カップに入った色水を多方向から覗き、「こっちから見たら紫だけど、こっちからだと黒に見える」と微妙な色の違いや、「さっき作った色水は濃かったけど、これは薄いね」と色水の配合によって色の濃淡に関心する姿があった。友だちが作った色水の色板を当て、同じ色探しを楽しむ姿もあった。
- ・蛍光クレヨンとクレヨンの同じ色を紙に描き比べ、同じ色の名前でも色が違うことに気づいた。「どうして蛍光クレヨンには、黒がないの？」という声もあがった。ブラックライトを使って塗料を光らせた時に色よっての見え方の違いに関心する声もあがった。
- ・様々な塗料を使って絵を描いた大きな紙を「壁に付けたい」→「なんだか映画館みたい」→「電気を消して」→光を当てたら？という興味関心に関心した。その後も「絵を家にしたい」「みんなが入れるくらい大きな家」という子ども達のイメージが広がり、「色の家」が完成した。他クラスにも見せたいという思いも叶い、子ども達が案内役となって、光が当たった時の色の変化を嬉しそうに伝えていた。
- ・1人の発見が周囲へと広がり、対話を通して新たな活動へと繋がる場面が多く見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の実践を通して、子どもの声に耳を傾け、思いや興味を引き出す環境を整えることが保育士の重要な役割であると改めて感じた。また、答えを与えるのではなく、自ら考える機会を継続して積み重ねることが、主体的な姿や参加意欲の高まりに繋がることを学んだ。また、他の学年の子どもに活動の様子を共有したことで「やってみたい」という思いが広がり、一クラスで完結する活動ではなく、園全体で探求を支えることの大切さにも気付いた。